

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名:群馬県外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発に関する運営委員会

1 事業の趣旨・目的

【事業の目的】

群馬県内の生活者としての外国人の生活環境向上のため日本語教育・支援の指導者、兼、地域のコミュニティーの促進に寄与する人材の養成を目指す。研修修了者は、日本語教育・支援プログラム及び教材開発などを行い、また、その成果を十分に活用できることが望まれる。将来的には、群馬県内の各地域・分野での日本語教育・支援コーディネーターとして活躍してもらうことを目指す。

【事業の期間】

平成20年10月1日から平成21年3月31日

2 企画運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
① 11月19日 15:00～17:00	群馬県立 女子大学 352室	運営委員 (4名) 事務補助 (1名)	1. 委託業務の内容説明 2. 事業計画の検討 3. 今後のスケジュール	本研修事業の目的と内容に関するコンセンサスをとった。その上で、具体的な研修内容と担当、及び、スケジュールの決定を行った。
② 12月10日 18:00～20:00	群馬県立 女子大学 352室	運営委員 (4名) 事務補助 (1名)	1. 研修の応募状況 2. 研修内容の再検討 3. 特別セミナーの企画	研修参加者の応募状況と参加可能な日時を考慮し、研修の日程調整と研修担当者の修正を行った。また、より多くの方々に日本語教育に関心を持つ

				てもらうために、一般公開の特別セミナーを企画した。
③ 1月14日 18:00～20:00	群馬県立 女子大学 352室	運営委員 (4名) 事務補助 (1名)	1. 研修実施の課題 2. 研修日時の調整 3. 特別セミナーの講師手配	研修をすすめていくうちに、いくつか問題が生じたため、日程の再修正や内容の微調整を行った。また、特別セミナーの日時と講師を決定した。
④ 2月20日 18:00～20:00	群馬県立 女子大学 352室	運営委員 (4名) 事務補助 (1名)	1. 研修状況の報告 2. 特別セミナーの実施体制	それぞれの研修の状況を報告し合い、その成果と課題について議論した。また、翌日の特別セミナーの実施体制の確認(人員配置やタイムスケジュール)を行った。
⑤ 3月4日 18:00～20:00	群馬県立 女子大学 352室	運営委員 (4名) 事務補助 (1名)	1. 報告書の作成に向けて 2. 経費関連の検討 3. 研修後の活動計画	研修もほぼ終わりに近づき、報告書の作成について議論した。関連して、経費関係のチェックも行った。また研修後の運営委員会としての活動計画について話し合った。

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名

「地域のコミュニティー促進に寄与する日本語教員養成講座」

(2) 研修の目標

群馬県内の生活者としての外国人の生活環境向上のための日本語教育の指導者、兼、地域のコミュニティーの促進者を養成することを目的とする。具体的には以下の3点に関する能力と知識の習得を目指す。

- ・日本語教育能力の高度なスキル(コースデザインや、評価法、教材開発など)
- ・行政的な交渉力(日本語教室の設立に向けた関係機関への交渉及びその管理・運営の方法、群馬県内の外国人事情の把握、行政的な課題の把握など)
- ・地域連携に関わるリーダーシップ(教室運営のためのコーディネート法の研修、教室運営や他のボランティアの取りまとめ方など)

(3) 受講者の総数

- ・講義と実習 29人
- ・特別セミナー 77人

(4) 開催時間数(回数)

- ・講義 18時間(11回)
- ・実習 51時間(28回)
- ・特別セミナー 3時間(1回)

(5) 参加対象者の要件

以下の①～⑥のいずれかに該当する方

- ① 日本語教育(特に地域の日本語教育)に携わっている方
- ② 日本語教育能力検定試験合格者
- ③ 大学・大学院等で日本語教育のトレーニングを受けた方
- ④ 日本語教員養成 420 時間修了者
- ⑤ 国際交流(国際交流協会や NPO など)に関わる組織に携わっている方
- ⑥ 上記、①～⑤に準ずる方

(6) 受講者の募集方法

【方法と媒体】

- ・群馬県庁・国際課ホームページへの掲載
- ・各地域の日本語教室を有する国際交流協会への呼びかけ(チラシの配布等)

【応募書類と応募方法】

- ・以下の2点の応募書類を添えて電子メールで募集した。
 - ① 履歴書(日本語指導歴又は日本語教室運営関連歴、日本語教育関連資格の有無を含む)
 - ② 課題レポート(日系人や日本人の配偶者など「生活者としての外国人」に対する日本語教育についての「現状における課題とその改善方法」・1,000 字程度)

(7) 研修会場

研修内容に応じて以下の複数の会場で実施

- ・講義: 群馬県庁会議室(前橋市)
- ・実習: 群馬県立女子大学講義室(玉村町)、群馬県庁会議室(前橋市)、NPO 地域医療情報連携協議会(前橋市)
- ・特別セミナー: 群馬県庁会議室(前橋市)

(8) 使用した教材・リソース

自作教材を中心に担当講師が適宜作成、準備した教材・リソース

(9) 講座内容

従来の日本語教員養成講座は主に、日本語教育能力のスキルに比重が置かれていた。しかし、「生活者としての外国人」に対する地域の日本語教育では、これに加え、行政的な交渉力に関する研修、地域連携に関わるリーダーシップの研修が不可欠である。そこで本養成講座では、以下の3部門からなる研修プログラムを実施した。

I 日本語教育スキルに関する研修

→コースデザインや、評価法、教材開発など、従来の日本語教員研修にあたるもの

II 行政的な交渉力に関する研修

→日本語教室の設立に向けた関係機関への交渉及びその管理・運営の方法、群馬県内の外国人事情、行政的な課題の把握、など

III 地域連携に関わるリーダーシップの研修

→教室運営のためのコーディネート法の研修、教室運営や他のボランティアの取りまとめ方など

それぞれの研修の実施日時、内容、担当講師、参加者を以下に示す。

I 日本語教育スキルに関する研修

【群馬県庁会場】

12/14(日)	内容	講師	参加者(時間)
①13:00-14:30	群馬県の多文化共生の現状(講義)	伊藤	4名(1.5時間)
②15:00-16:30	群馬県の多文化共生の課題と解決策(講義)	伊藤	4名(1.5時間)
2/11(水)	内容	講師	参加者(時間)
①10:30-12:00	文法項目の難易度について(講義)	伊藤	6名(1.5時間)

②13:00-14:30	語彙の難易度について(講義)	伊藤	6名(1.5時間)
③15:00-16:30	教室活動における言い換え《実習》	伊藤 ヤン	4名(1.5時間)
④16:45-18:15	適切な例文の作り方《実習》	伊藤 ヤン	2名(1.5時間)
2/21(土)	内容	講師	参加者(時間)
①9:30-12:30	ボランティア教室の課題 (1)コーディネーターの必要性(伊藤) (2)文法の観点から(野田) (3)語彙の観点から(山内) (4)「やさしい日本語」の観点から(佐藤)	伊藤 野田 山内 佐藤	8名(3.0時間)
3/1(日)	内容	講師	参加者(時間)
①10:30-12:00	文型指導のポイント(講義)	伊藤	9名(1.5時間)
②13:00-14:30	発音指導のポイント(講義)	伊藤	11名(1.5時間)
③15:00-16:30	会話指導《実習》	伊藤	10名(1.5時間)
④16:45-18:15	繋がる会話とは?《実習》	伊藤	12名(1.5時間)
3/14(土)	内容	講師	参加者(時間)
①10:30-12:00	学習動機と学習スタイル(講義)	伊藤	15名(1.5時間)
②13:00-14:30	教材選択のポイント(講義)	伊藤	15名(1.5時間)
③15:00-16:30	教科書分析1《実習》	伊藤	16名(1.5時間)
④16:45-18:15	教科書分析2《実習》	伊藤	13名(1.5時間)
3/15(日)	内容	講師	参加者(時間)
①10:30-12:00	語彙指導のポイント(講義)	伊藤	13名(1.5時間)
②13:00-14:30	ニーズ分析と目標言語調査(講義)	伊藤	12名(1.5時間)
③15:00-16:30	コースデザインをしてみよう1《実習》	伊藤	11名(1.5時間)
④16:45-18:15	コースデザインをしてみよう2《実習》	伊藤	10名(1.5時間)
3/20(金)	内容	講師	参加者(時間)
①10:30-12:00	カリキュラムデザイン《実習》	伊藤 ヤン	11名(1.5時間)
②13:00-14:30	シラバス作成1(話題シラバス)《実習》	伊藤 ヤン	12名(1.5時間)
③15:00-16:30	シラバス作成2(場面シラバス)《実習》	伊藤 ヤン	12名(1.5時間)
④16:45-18:15	シラバス作成3(語彙シラバス)《実習》	伊藤 ヤン	12名(1.5時間)

3/22(日)	内容	講師	参加者(時間)
①10:30-12:00	シラバス案の発表と検討1《実習》	伊藤	8名(1.5時間)
②13:00-14:30	シラバス案の発表と検討2《実習》	伊藤	9名(1.5時間)
③15:00-16:30	シラバス案の発表と検討3《実習》	伊藤	11名(1.5時間)
④16:45-18:15	コーディネーターとして何ができるか?《実習》	伊藤	11名(1.5時間)

【群馬県立女子大学会場】

2/13(金)	内容	講師	参加者(時間)
①17:50-19:20	ボランティア教員養成の課題1《実習》	伊藤 ヤン	2名(1.5時間)
②19:30-21:00	ボランティア教員養成の課題2《実習》	伊藤 ヤン	1名(1.5時間)
2/18(水)	内容	講師	参加者(時間)
①17:50-19:20	ボランティア教員養成のシラバス案1《実習》	伊藤 ヤン	2名(1.5時間)
②19:30-21:00	ボランティア教員養成のシラバス案2《実習》	伊藤 ヤン	1名(1.5時間)

【特別セミナー(一般公開)】

2/21(土)	内容	講師	参加者(時間)
13:30-16:30	共通テーマ:“生活者としての外国人”に対する日本語教育にどう取り組むか? <ul style="list-style-type: none"> ・“群馬モデル”の構想(伊藤) ・“生活者としての外国人”のためのコミュニケーションを重視した文法(野田) ・語彙リストを利用した日本語教育(山内) ・“生活者としての外国人”と自然災害 –「やさしい日本語」で被災外国人の心的負担を軽減する(佐藤) 	伊藤 野田 山内 佐藤	77名(3.0時間)

※講師の欄の「伊藤」は伊藤健人(群馬県立女子大学・講師)、「野田」は野田尚史(大阪府立大学・教授)、「山内」は山内博之(実践女子大学・教授)、「佐藤」は佐藤和之(弘前大学・教授)、「ヤン」はヤン・ジョンヨン(群馬県立女子大学・非常勤講師)を表す。

【研修の写真】



【特別セミナーの写真】



Ⅱ 行政的な交渉力に関する研修 及びⅢ 地域連携に関わるリーダーシップの研修

【NPO 法人・地域診療情報連携協議会事務所(前橋市)会場】

1/11 日(日)	内容	講師	参加者(時間)
①9:00-12:00	外国人を対象とした書初めから学ぶ日本文化	瀧澤	5名(3.0時間)
②13:00-15:00	地域との連携事業の企画・運営 1	瀧澤	5名(2.0時間)
2/14(土)	内容	講師	参加者(時間)
①9:00-12:00	外国人を対象とした緊急事態への対応法	瀧澤	5名(3.0時間)
②13:00-15:00	行政との連携について	太田	5名(2.0時間)
2/28(土)	内容	講師	参加者(時間)
①9:00-12:00	各地域で実施している日本語関係講座	瀧澤	8名(3.0時間)
②13:00-15:00	県と市町村:地域の日本語教室の現状と課題	太田	8名(2.0時間)
3/15(日)	内容	講師	参加者(時間)
①9:00-12:00	地域との連携事業の企画・運営 2	瀧澤	4名(3.0時間)
②13:00-16:00	地域との連携事業の企画・運営 3	瀧澤	4名(3.0時間)

※講師の欄の「太田」は太田祥一(群馬県生活文化部国際課係長)、「瀧澤」は瀧澤清美(多文化共生ネットワーク前橋(RECOM)事務局長)を表す。

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

講座全日程終了後、参加者に本講座に対する評価アンケートを行った。ここでは一部を抜粋し提示する。

<アンケート結果(一部抜粋)>

【評価すべき点】

- ・「従来の講座と違う内容で、新鮮味があり、大変役に立ちました。」
- ・「一方通行ではなく自分の頭で考えることがたくさんあった講座でした。」
- ・「今までカリキュラムなど一人で考えないといけなかったが、今回の講習で他の交流協会の人たちとの意見交換ができてよかった」
- ・「日頃から疑問に思っていたことが納得できた。また、色々なことをリンクして考えることができて面白かった。」
- ・「地域の日本語教育は難しいと改めて感じたが、多くの皆さんと会えてよかった。」
- ・「これからここで学んだことを活かして活動して、日本語教室を背負って立ちたい。」
- ・「色々な人と出会えたので、ここで終わりとせずこれからも交流を図っていきたい。」
- ・「講習内容はもちろん、休み時間や昼休みに皆さんとお話する内容全てが私にとっては勉強でした。」

【改善すべき点】

- ・「この講座に関する事前のPRが十分ではなかったと思います。」
- ・「全体として講習が3部門に分かれていたが、それぞれの連携が取れていないように思った。」
- ・「3部門の中でⅡ、Ⅲにあたる講習は、期待していた内容と違っていたので、今後また異なった角度からの講習をしてほしい」

②実施主体からの研修内容結果評価

【成果：研修の目的である“コーディネーターの重要性”が理解してもらえた】

今まで自身の所属している日本語教室という限られた視野での日本語教育・支援を考えてきた日本語指導員の方々に、より広い視野で全体を見渡せるコーディネーターという存在を啓蒙できた。コーディネーター養成という目的から、講義形式の授業だけではなく、実際に受講者自らが予算など運営面も含めた「生活者としての外国人」を対象としたコースデザインを行い、発表、そしてさらに検討するという演習にも力を入れた。その結果、受講者からも一定の評価が得られた。

<アンケートより>

- ・「地域日本語教室に焦点を絞った講座で、現実の課題と解決方法が明示された。」
- ・「地域の日本語教育、という点に特化した上で、具体的な教室活動と活動におけ

るシラバスの提案まで落とし込めた。」

- ・「目先のこと(担当の日本語教室)しか考えていなかったが、そこで必要だと考えていることについて、ほかに目を向けることで実現できる可能性があることがわかった。」

【課題： 教え方など技術的な研修の要望】

コーディネーターの養成という目的がある程度達成できた一方で、教え方のポイントなど、具体的な指導法に関する要望もあった。

<アンケートより>

- ・「地域の一ボランティアとして日本語学習者を支援していくための教え方のポイントについて知りたかった。」
- ・「ボランティア同士では教えあうことがあまりないので具体的な方法についてもう少し知りたいと感じた。」

コーディネーター養成と共に、ボランティア指導員への技術的な研修も依然として必要とされていることを改めて感じた。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

【コーディネーター養成を続けながら、ボランティア教室の環境整備に努める】

群馬県内の日本語教室では、ボランティア指導員が不足している日本語教室も少なくない。また、ボランティア日本語教室の多くは、新規のボランティア指導員の養成を定期的に行う余裕がないことが多い。

<アンケートより>

- ・「自分がボランティア活動を始めて既に4年になり、本来ならボランティアのコーディネーターになるための勉強もしたいところですが、私が所属する日本語教室の実態を考え、また私自身の時間的余裕のことを考えても、近い将来そのような活動をするのは地域の実態に即していないような気がします。」
- ・「これからボランティア活動を始めようとしている人、または活動を始めたばかりの人を対象とした講座を設けていただけたら嬉しい。」
- ・「ボランティアの人数を増やすための対策があったらよい。」

多くのボランティア日本語教室では、限られた人数で運営しなければならない状況である。従って、ボランティア指導員の個々の負担が増し、また、このことにより、新規のボランティア指導員の養成が十分に行えないという事態を招き、その結果、慢性的な人手不足という悪循環

環に繋がっている。このような実情を考えても、自らがボランティア講師を育てられる人材養成が急務であることがいえよう。

さらに、ボランティア教室という組織の中で新規指導員養成が行えるように、時間的、さらに資金的な部分を含めて方策を考えていきたい。

【新たな活動に向けて：日本語教育・支援内容の充実】

研修内で行った実習において、現状では十分な日本語教育・支援が行き届いていない人たちを対象に、特色あるコースデザインが参加者から提案された。

- ・「子育て支援とリンクした(日本人の配偶者向け)日本語教室」
- ・「外国人高校生のための教科補習も含めた日本語教育」
- ・「自宅で受けられる日本語教育・支援(e-learning)」など、

これらについても、今後実施していけたらと思う。

(11) 事業の成果

【他事業との連携：県レベル日本語教育政策に反映させる】

本研修の参加者からは、より広い視野での今後の日本語教育全般に関する要望や意見を伺うことができた。

<アンケートより>

- ・「地域日本語教育の活性化として、横連携のための地域日本語教育サミット開催を全国規模で行なってほしいです。また、そこで教材、教室活動など小部会での提案を行い、そこに具体的な予算をつけて、活性化をはかってほしいです。」
- ・「県内の多くの地域日本語に関心のある方と、お知り合いになれて良かったです。今後、連絡を取り合って、学習会を続けていきたいと思っています。」
- ・「公費で教材作成やボランティア育成のシステムを作してほしい。地域日本語を教えられる人(有償でも)が育っていけばよいと思います。」

このような要望・意見を、群馬県で平成 21 年度に計画されている群馬県内の「日本語教育推進指針(仮)」の策定委員会に届けるとともに、必要に応じて会議に参加して頂き、具体的な要望や問題提起をしてもらいたい。

また、本運営委員会が呼びかけを行い、群馬県内のボランティア教室のそれぞれが解決すべき課題を持ち寄り、「成果が形になって現れる」ネットワーク・連携会議を企画したい。

【研修後の人材活用】

本研修の修了者は日本語教育・支援コーディネーターとして、それぞれが所属するボランティア教室内外で、新規のボランティア指導員への各種研修や、コースデザイン、教材開発に

参加して頂きたい。そのための環境作りに本委員会が調整を行うことに努めたい。

(12) 今後の課題

【日本語教室や指導員研修の運営資金、新たな人材と養成機会の確保】

本研修の参加者からは、ボランティア日本語教育・支援の根本的な問題に対する意見・要望も少なくなかった。

<アンケートより>

- ・「現状としてまず地域、そして国に求めることは安定した資金の供給です。民間の日本語学校を見てみると、バブルなどの経済の動きとともに成長を遂げてきたのも、潤沢とはいえないながらも一定の資金があるからこそでしょう。しかし、地域レベルでの日本語教室はどうでしょうか。学習者、支援者ともにお互いに十分な経済投資ができるだけの基盤がないので消極的にならざるを得ないのが現状の一側面といえるでしょう。地域の学習者と支援者との間に余白をつくり、この身動きの取れない相関関係を改善するためにも、地域や国が地域の日本語教育に対して一定の資金を長期的に確保することを私は望みます。」
- ・「現在地域外国人への日本語教育はボランティア協会に全面委託ですので丸投げといった感じを受けます。もっと行政の積極的な協力を望んでおります。」
- ・「本来は行政がすべきことを、ボランティアにまかせっきりにしている。少しはボランティアに援助してもらいたい。」

質の高い日本語教室の設置運営やその教室の指導員研修には、一定の資金が必要と思われる。また、慢性的な人材不足の状態にあるボランティア日本語教室もあり、新規の指導員の確保に向けた研修を定期的に確保するためにも人材と資金は不可欠である。

本研修は、文化庁の委託事業として「地域のコミュニティー促進に寄与する日本語教員養成」を行ったが、このような機会が継続的に持てるように、行政レベルの体制作りと安定的な資金提供が望まれる。